

歴史探訪

クラブ

其の184

History Inquiry Club

文化財課 ☎ 22-1720
(博物館) FAX 22-2028

まち歩きの魅力

最近某テレビ局でまちなかをブラブラと散策しながら、そのまちの魅力に触れるという番組があります。

また、近年の健康志向により、まちなかをウォーキングされている方を市内のあちこちで見かけます。

博物館でも小学校などから、その校区を探索する授業の先生をお願いされることがあります。そんなときに、普段は見慣れた景色の中から、ふと「あれ？」と思うようなことを

発見するときがあります。

例えば、次の写真を見てください。かつては、港町として栄えた福江のまちなかの写真ですが、近接して橋が2本架けられているのが分かります。その距離わずかに40mほど。そのくらいならば、1本で十分なのではと思いい、少し調べてみるといろいろなことが分かりました。



まずこれらの橋は、江川という川に架けられ、手前の橋が「観音橋」、奥の橋が「福江橋」といって、明治44年までは、観音橋のみがありました。それでは、なぜ福江橋が架けられたのかというと、それは、福江港から続くまち（商店街）の広がりによるものでした。当時のまちの中心は、現在の福江町下地地区（写真右側）で、徐々にそのまちが原ノ島地区（写真左側）へと大きくなっていく中で、そこを通る人たちが少しでも便利ないようにと造られました。

次に名前の由来です。福江橋は、その名の通り現在の町名から取られたものです。福江という地名は、明治22年に町制が施行される際に、それまでの畠という地名から変更されました。港の入り江を中心にまちがますます栄えていくようにという願いに、縁起のよい福という字が当てられ、明治44年に建設された橋の名前にも、ぴったりの名前でした。

ちを歩きながらその上流を探すと面白いことに気付きます。現在の地図を見ると、川は非常に短く突如として地上に現れるように見えます。そこで昔の地図と見比べると、少し離れた畠神社の東側、福江小学校の辺りから川が流れ始めていることが分かります。現在の川は、道路の下を流れているのです。

このようにまちをぶらりと歩くとさまざまな魅力や不思議を発見することが出来るかもしれません。皆さんもブラブラしてみませんか。

(天野)

この二つの橋の付近が福江のまちの中心であった証拠として昭和30年代ごろまでは、この橋の道沿いに市（三八の市）が開かれたり、この橋を挟んだ所に特設の櫓を組んで盆踊りが行われたりもしていました。

